

分科会「第2回タンゴの魅力」(アルゼンチンタンゴサン 三者三様)

山本 一成

1. 初期のタンゴを聴いて頂きます。
(ヴァイオリン・ピアノ・フルートの編成)
・「PAMPA」(F. Pracanico) フェレール・フィリポット楽団 3:05
1918年録音
2. バンドネオンが大きくタンゴの性質を大きく変えた。
(ヴァイオリン・バンドネオン・ピアノの編成)
・「De Vuelta Y Media」 デドアルド・アローラス楽団 3:19
1918年録音
3. しかしヴァイオリンもタンゴの魅力、バンドネオンだけが主役ではない。
ドナート＝セリージョ楽団を紹介いたします。 1920から1930年録音
・「La Cumparsita」 3:58
・「Segui no Te Tarde」 3:00
・「Zafa de La Marrazon」 2:53
4. タンゴは編曲の妙。
タンゴでは、作曲者の作ったメロディーは大切にされるものの、演奏する楽団の編曲により、新たな旋律や副旋律がつけられたり、変奏がつけられたりすることが当然のようになっています。

「バンドネオンの嘆き」を例に挙げ、3楽団の演奏を紹介いたします。

- ・ドミンゴ・フェデリコ楽団 3:44
- ・ファン・ダリエンソ楽団 2:30
- ・アニバル・トロイロ楽団 2:39

・前回のおさらい

<タンゴの歴史概略図>

